

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (48)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

英語修得(English learning)は要領であると考え。遠回りではなく要領よくいきたい。要領が悪いと年数ばかりかけていて伸びるようでいっこうに伸びないだろう。昨日より今日、今日より明日と日々常に新たな発見をしていきたいものである。要領が悪いと気づいたら浦島太郎ということになってしまうが、その要領とは何か？ということになる。

英語は入口(way in)だけを見ているとやはり出口(way out)はいつまでたっても見えてはこないだろう。山の麓ばかり見ているのではなく、頂上もとりあえずでも見てしまっておきたいのである。数学的に2点間の最短距離は直線であるが、常に出口を意識しその出口への迷路を上から見定めつつ最短距離の直線を求めていきたいわけである。

要領の1つとして英文を文単位で見ているだけでは先は見通せない。できるだけ早くこれから脱し段落単位でいきたい。今回(1)の段落文では2020年の大統領選出馬表明に関する Trump 氏の tweet (結果的には Biden 氏に敗けたが)、(2)では彼の大統領就任一期目で1年後の2018年の tweet をスペイン語対照で見えていく。段落単位で各文がどのように動き、その談話文の discourse coherence (意味的結束性)がいかに保たれるかである。本連載(33), (36), (37)で触れたが、専門的には音声面も含めた structural linguistics 風の taxemics/tagmemics (談話文特性素論)の範疇であり総合的な見方となる。

これは一定の数の駒 (piece / pawn)により展開される奥の深い詰め将棋やチェスの世界と類似する。詰め将棋では40個の駒の1つの布石が次の局面を一挙に変えていくが、これにも pattern (パターン)があるはずだろう。同様に段落英文も振り出し語により次の語が一定のパターンに基づき適宜決定され、words (語)により全体が構成されていく。

これが特に有限個の850個の駒を基本とする緻密な Basic 言語の世界となると振り出し駒から、各駒が一定の枠内で選定され連続的に次々と決定されていく。このあたりはまさに 81升の中での対局となる詰め将棋の世界と似ていて、きわめて数学的である。いずれにせよ、文中での各語の整序法(ordering)は一定の pattern に基づいてなされる。物事はこの一定の pattern があれば理解できるが、なければ混沌である〔なお、ラテン系の語 pattern は語頭の[p]音がゲルマン系で[f]音と化した Basic 語 **father** などとも同系〕。

Trump 氏は常に good / bad の2値的(two-valued)な論理でモノを言うので、その英語は意味的にきわめて簡素な内容・文体のものとなる。今回も前回と同じように目には見えない彼の心中の思いを(1)ではまずは日本語で提示し、次に実際の tweet を見てみる。

- (1) 「いよいよ6月18日には2期目の2020年大統領選に出馬の表明をする、ファーストレディのメラニア、副大統領のマイク＝ペンス、セカンドレディのカレン＝ペンスと一緒にフロリダのオーランドでの表明となる、あそこのアムウェイセンターは広くて2万人収容できる、歴史的な集会となるので来て欲しい」。この Trump 氏の思いが encode 化され次の tweet となった。

I will be announcing my Second Term Presidential Run with First Lady Melania, Vice President Mike Pence, and Second Lady Karen Pence on June 18th in Orlando, Florida, at the 20,000 seat Amway Center. Join us for this Historic Rally! (May

31, 2019)

▲結果はこのとおり 2019 年 6 月 18 日に出馬が決まった。文頭振り出し語が I (私) とされ、Iの視点で書かれている。典型的な事柄の整理法であるが、常に段落テキスト文の最初の振り出し語が何かに注目するとよい。その振り出し語が全体の流れを決定する。

太線の Basic 語 **second** を見ておこう。音感からも本質的な意味を押さえておきたい。印欧祖語 PIE の語根音素形は/SEKW/とされ、そもそもの原義(root sense)は「後を追うこと」である。un-Basic 語の、たとえば sequence (連続) などが同系語だと言うと分かりやすかろう。sequence は[sí:kwəns]であり[w]音をもっていて印欧祖語の痕跡を残している。consequence (結果) なども同系語であることは分かろう。[w]音はもたない persecute (迫害する)、execute (執行・処刑する)、seek (追い求める) なども同系。Basic 語 **second, society, design, sign, see, etc.**はすべてこの系列語群である。いずれも「前のものにつづくこと、後を追うこと」という語感をもつ。society (社会・協会・会) は「仲間のこと」であり連帯してつながっていく感じのある語である。さらに関連して soccer (サッカー) にも soc がある。これは association football の短縮形で[socc (< **society**) + er]に由来する〔拙著(2016)「松柏社」は 150 Basic 語を基本に約 10,000 語の意味を類推で理解する方法を示唆するものであるが、ここでの例は第二部、例(39)参照〕。

文末の太線語 rally (集会) は ally (同盟する・同盟国) などとも同系で、「つながりのあること」が原義である。この原義からすれば、おそらく Basic 語 **line** などとも根元ではつながっているだろう〔同上拙著、第二部、例(3)参照〕。

〔以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2 言語対照〕

(2) I've had to put up with the Fake News from the first day I announced that I would be running for President. Now I have to put up with a Fake Book, written by a totally discredited author. Ronald Reagan had the same problem and handled it well. So will I! (January 7, 2018)

cf. He tenido que soportar a los Medios Falsos desde el día que anuncié que contendría por la Presidencia. Ahora tengo que lidiar con un Libro Falso, escrito por un autor desprestigiado. Ronald Reagan tuvo los mismos problemas y lo resolvió bien. ¡ Haré lo mismo ! (7 de enero, 2018)

▲この段落テキスト文としての tweet も、Iを振り出し語として心中の思いが語られる。Trump 氏の苦悩がよく分かる内容で、彼は 1 期目の大統領選に立候補した時点で、すでに何かと批判を受けていた。めでたく 2017 年 1 月に大統領に就任すると 1 年後の 2018 年 1 月に暴露本なるものが出た。Trump 氏は文中で「まったく信用できない著者による偽本」だと書いているが、これは Michael Wolff (著) *Fire and Fury: Inside the Trump White House*『炎と怒り — トランプ政権の内幕』というベストセラー本であった。Trump 氏はこの偽本は嫌がらせであり、Reagan 元大統領もこういう嫌がらせをされたがそれに耐え上手く乗り切った。自分も乗り切る！と言っている内容である。元来が Trump 氏は故 Reagan 元大統領のファンであった。

さらに 2018 年 9 月には、本連載(5)の①で触れたやはり暴露本とされる Bob Woodward (著) *Fear: Trump in the White House*『恐怖の男 — トランプ政権の真実』が世に出た。これもベストセラーとなった。この 2 冊を筆者は読んだわけでないが、内容はおおよそ見当はつく。いかにも超神秘主義的 (オカルト的) なものと結びつく気もする。

かつて (1970 年代)、五島勉氏が 16 世紀のフランスの医師で占星術師として知られる

M. de Nostradamus (M.ノストラダムス)の著 *Centuries*『諸世紀』に基づき、『大予言』というシリーズ物の書を著し世間を騒がせたことがあった。曰く、異常気象・天変地異が頻繁に起こるようになる世界の終末に、恐怖の大王が地に現れ、人類は地獄に落ち滅亡するといふのである。このシリーズ物『大予言』は、Nostradamusの韻文予言詩集に現れる各語の解釈(語釈)を問題とし意味論的に大いに興味深いものであった。

新約聖書の最終章 Apocalypse(黙示録)の預言記述とも絡め、いわばこの「恐怖の大王」が前米国大統領 Trump 氏?だとする今日的な解釈もある。彼がアメリカ国旗(星条旗)を掲げ、吹き鳴らす trumpet(トランペット)の音(彼の言説)が聞こえはじめると、triumph(勝利)の音が天の tribunal(裁きの場・法廷)から tribe(部族)に下り、世が終焉する?(あるいは復活する?)という解釈である。Trump(<trump: 権力者)をはじめ trumpet, triumph, tribunal, tribe, etc. (tribeはプラスα Basic語)はすべて同系(paronymic)。このあたりは本連載(6)で扱ったが、ともあれ今日、世には上記2冊の暴露本をカルト(occult)的に解釈する集団があるはずだろう。QAnon(<Q Anonymous)という Trump 氏の特別な信奉者たちのいることも今日よく知られている。

あえてオカルト的に言えば世の終焉(復活)の具体的な日はやはりアメリカ支配の日か?本連載(4)の②で扱ったが6月14日はアメリカでは Flag Day(国旗の日)で特別な祝日である。また6月14日は Trump 氏の誕生日でもある。月日はこの日か?彼の America First!, Keep America Great!とともに、本連載(30)の冒頭で引き合いに出した彼の信条 “We will be one people, under one God, saluting one American flag.”の意味がこの日に世界に示されるはずだったのか?それともこれはまだ今後のアメリカの Flag Day のことか?新約の Apocalypse『黙示録』の世の終焉はどう解釈するのか?

いずれにせよ、世には妙な宗教もあるが occult の印欧祖語 PIE の語根音素形は/KEL/とされ「覆い隠すこと」が原義で Basic語 color, hole, hollow など、プラスα Basic語 hell, cell など、また Apocalypse は{apo- (= away) + calypse}で-calypse も occult と同系であり「隠し事を暴露すること」の意味である〔同上拙著、第二部、例(54)参照〕。

太線語 author(著者)は PIE の語根音素形/AUG/からとされ、「増やすこと、生じさせること」が原義である。書いては消し、消しては書く原稿書きも推敲を重ねるほど、一般にはせつかく書いたものを削除するより加筆する部分が増えていくものだが、米国の作家 E. Hemingway などは省略の作品ばかりを書いた。彼は原稿推敲の段階で加筆ではなく削除部を追究し重要視したわけで、元来が彼はジャーナリストであった。

author と Basic語 authority は音感からも同系と感知したい(ここでは[ə]音をもつ)。un-Basic語では auction(競売・オークション)なども同系である(ここでは[k]音をもつ)。祖語の音素/g/の痕跡を残す同系語には augment(増大する・増加)、augment(尊厳な)などがある(ここでは音声[g]をもつ)〔同上拙著、第二部、例(149)参照〕。

太線語 problem の語感も一般に感じ取られていないと思える。これは{pro (= before) + blem (= to send)}で「前に投げかけること」が原義である。emblem(象徴・紋章・記章)は{em (= in) + blem (= to send)}で「中に投げかけること」であるが、いずれも後ろの blem は Basic語の ball(ボール)、プラスα Basic語 ballet(バレエ)などとも根元ではつながっているだろう。ball は身体を投げかける「舞踏会」の意味にもなった。

下線とした and にも注目しておきたい。and と but の使い分けであるが、こういう文脈上の流れでは but より and が自然な感じである。よくある例である。

cf. のスペイン語 soportar, medio(s), falso(s), día, anuncié (< anunciar), contendaría (< contender), presidencia, libro, escrito (< escribir), autor, desprestigiado (<

desprestigiar), problema, resolvió (< resolver)は、それぞれ英語の **support**, media, **false**, day, announce, contend, presidency (*president*), **library**, scribe, author, without prestige, problem, resolve が対応する〔太字体は Basic 語、イタリック体はプラスα Basic 語〕。統語的にも互換性があり英語・スペイン語 2 言語間の変換は実に容易である。

スペイン語の修得も英語とバイリンガルで臨むのが手早く、要領がよい。ゲルマン系の英語をラテン系のスペイン語などと対照することで、相乗効果により両方ともがよく見えてくる。日本人で英語ができる人がいわゆる第 2 外国語としての他の西洋語もできるとは限らないが、他の西洋語ができて英語がまったくできない人はいないはず。

以下に上の英語文を、(5×n)個の升目をもち次々と語が横軸に入力され縦軸に回転する母型としての仮称 MSOE(Matrix Screen of Output English)モデル上で動かしてみる。

STATEMENT					
		THEME: NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	I	've had to put up with	Fake News	from the first day
2	φ	I	announced /	φ	φ
3	that	I	would be running	φ	for President. //
1	Now	I	have to put up with	a Fake Book, /	φ
2	φ	φ	φ	written	by a totally discredited author. //
1	φ	Ronald Reagan	had	the same problem /	φ
2	and	φ	handled	it	well. //
1	So /	I (∞)	will. //	φ	φ

(備考) 単一斜線 (／) は各文での意味的 2 分割線。記号∞は次の語との反転(reversion)を示す。

ここでは discourse marker (談話標識) としての now や so も、今日的な補文を導く N. Chomsky 風の complementizer (補文標識) に準ずるものと考え C/C として処理している。たびたび言っているが、空 (φ) となる升目にも要注目。

上で段落テキスト文での統語法的な語整序に関し触れたが、この 2) の tweet 段落文中で 1 文を抜粋し次のように語が並べられた場合、どのように各語を布石し整序するか。

Now I have to put up with a Fake book, [a, author, by, discredited, totally, written].

2)での原文どおりに整序がどの程度の速さとともに正しくできるかであるが、語整序は簡素な形式のなかで、総合的に自分のもっている英語のあらゆる知識が一举に働くこととなる。これは英語力を手早く推し量るバロメーターの 1 つとなる。この種の英文段落中で次々と語 (将棋でいう駒) を布石する過程には数学的な structural linguistics (構造主義言語学) 風の 1 つの実践例を見ることとなるが、拙著『基本語で考える英文整序法：語配列の手順』(2009)〔松柏社〕ではすべて Basic 文例 (段落文例) を介し集中的に扱い、解説を付すとともにその手早くあり要領のよいと考える方法を提示しておいた。

